令和８年度　第１回さいたま市民大学運営委員会　議事録

１　開催日時

令和８年７月３１日（金）　午後２時から午後３時４０分まで

２　開催場所

生涯学習総合センター　１０階　多目的ホール

３　出席者

〈委員：７名〉

① 山中　冴子　　委員長
② 川又　伸彦　　委員
③ 黒金　英明　　委員
④ 佐藤　美子　　委員
⑤ 関根　広美　　委員
⑥ 冨岡　泰夫　　委員
⑦ 西野　光義　　委員

〈事務局：７名〉

生涯学習総合センター

① 館長	金子　博臣
② 副館長	大城　冬樹
③ 主幹兼事業・企画係長	山田　浩行
④ 事業・企画係主査	蜂谷　香織
⑤ 事業・企画係主査	三好　七月
⑥ 社会教育指導員	永井　紀美子
⑦ 社会教育指導員	村上　さとみ

４　欠席者名

〈委員：４名〉

① 秋元　創　　委員
② 小澤　千佳子　委員
③ 多田　宏美　　委員
④ 水町　浩之　　委員

５　報告事項

（１）令和７年度さいたま市民大学実施結果について
（２）令和８年度さいたま市民大学実施状況について

６　協議事項

（１）令和９年度さいたま市民大学各コース（案）について

７　その他

（１）運営委員会等のスケジュールについて（予定）

８　公開・非公開の別

公開

９　傍聴者の数

０名

１０　開会

冒頭、西野光義委員に委嘱状の交付を行った。

１１　報告内容

（１） 令和７年度さいたま市民大学実施結果について、事務局から資料１を基に説明。

以下、質疑の内容

関根委員	教養Ⅱコースについて、この講座は自分の住んでいる地域を見直すきっかけになり、防災の面でも地域を知ることにつながるので、とてもいい講座だったと思う。今後も続けてほしい。しかし、開催時間が１４時から１６時だと夏は少し厳しいのではないか。他の子ども向け講座のように午前中にすると保護者も対応しやすく、もう少し参加者が増えたのではないかと思う。
事務局	暑さが厳しい時期であるが、夏休みは子どもが参加しやすいため、開催時間や実施方法も考慮しながら、地域について学べるような講座も引き続き検討していく。
冨岡委員	全体的に参加者からの評価が高いものが実施できてよかったと思う。中でも文学コースや美術コースなどの市の図書館や博物館との連携講座では、参加者から応用編を学びたい、継続して参加したいという声があるので、応用編の実施を検討してほしい。一方で、基礎編の参加者が再び参加することで、新しい参加者が広がりにくいデメリットもあるため、その辺りはうまく工夫してほしい。 生成ＡＩのオンラインコースについて、定員１００人の講座で応募倍率が３倍以上あったにもかかわらず、実際の受講率が８割程度にとどまっている。時間帯や開催方法など、もう少し工夫できる余地があるのではないか。オンラインだと参加のハードルが低い反面、欠席もしやすい。せっかくよいテーマなので、参加率向上に向けた工夫を検討してほしい。
事務局	生成ＡＩコースについて、開始時刻が１９時からだったため、帰宅が間に合わず参加できなかった方もいたかもしれない。また無料講座ということも受講

	率に影響しているのではないかと思われる。今年度はリアルタイム配信ではなく動画配信で実施しており、参加者が自分の都合のよい時間に受講できる形にしている。
川又委員	生成ＡＩコースについて、ＡＩというテーマへの関心の高さに加え、オンライン開催だったことも応募者が多かった理由ではないかと思う。この講座は現役世代の応募も多かったことから、今年度実施しているようなオンデマンド配信で、自分の見たい時間に受講できる形にすると、実際の受講者も増えるのではないか。また、抽選で落選した人からすると、当選したのに受講しなかった人が多いのは不満につながる可能性もあるため、実受講者を増やすという意味でもオンデマンド形式は有効ではないかと思う。 他の講座でもオンデマンドで実施できるものがあれば増やし、現役世代にも学習やスキルアップの機会を広げられるよう、今後も開催方法を工夫してほしい。
事務局	令和７年度は Zoom 開催、本年度はオンデマンド配信で実施しているところで、その申込状況や受講状況も踏まえて、委員の皆様から意見をいただきたい。 なお、令和７年度の生成ＡＩコースのアンケートでは「興味のあることを Zoom で気軽に学べた」という意見のほか、「車椅子を利用していて子どももいるため会場参加は難しかったが、オンラインだったので参加できた」という声もあり、オンライン形式で実施できてよかったと感じている。
山中委員長	学ぶことへのハードルを下げていくこともとても大切である。
黒金委員	全体的に満足度が非常に高いということで、大きな成果が上がっていると認識している。 受講者の年齢層について、資料を見ると参加者の年齢が６０代以上と１０代以下に偏っているように見える。次年度以降の講座を考える際に、年齢層の偏りをもう少しならしていくべきと考えるのか、それとも満足度が高いので現状のままでよいと考えるのか、その点についての事務局の考え方や見解を聞きたい。
事務局	参加者の年齢層が高齢者と子どもに二極化していることは、公民館全体としての課題でもある。特に、現役世代にどのように学びへ参加してもらうかが課題となっており、その解決策の一つとしてオンライン講座があると考えている。今後も、参加しやすい方法について検討していきたい。
佐藤委員	一覧表を見ると応募者も多く、全体としてよい事業になったと思う。 参加者が高齢者と子どもに分かれている点は課題として考えられるものの、高齢者にとって社会とのつながりはとても大切であり、高齢者の参加が多いことを悲観する必要はないと思う。高齢者は社会とのつながりがなくなると孤立しやすく、認知症や健康面の問題にもつながるため、今後も高齢者が社会と関わる機会を積極的につくってほしい。 参加者から「もっと深く学びたい」「さらに知りたい」という声もあったとのことなので、単発の講座と連続講座をどのように分けて実施しているのか、そ

	の点について確認したい。
事務局	高齢者が社会と関わりを持つことはとても重要である。一方で現役世代を学びにつなげていくことも大切なので、バランスを取りながら考えていく。 単発講座と連続講座については全てを明確に分けているわけではない。より効果的な学びにつながるよう、内容に応じて何回実施するのがよいかを講師とも調整している。 連続講座には学びを深められるメリットがある一方で、参加者の広がりが出にくい面もある。一方で、歴史コースのように、年度をまたいでも内容がつながっていることで、継続して学びたい人のニーズに応える講座もある。今後は運営委員会での意見やアンケート結果も参考にしながら、連続性を持たせる講座と単発講座のバランスを考え、内容に応じて運営していきたい。
山中委員長	報告事項１についてはさまざまな意見が出され、今年度の実施状況を見るうえで重要な視点が共有できたのではないかと思う。数値の評価は難しい部分もあり、例えば学びや技術の習得に関する数値を高いと見るのか低いと見るのか判断が難しい。応募人数が少ない講座についても、人数が少ないから価値がないというわけではなく、市民大学として大切にしていくべきテーマもあるので、その辺りをどう考えていくかが重要ではないかと思う。

（２）令和８年度さいたま市民大学実施状況について、事務局から資料２を基に説明。

以下、質疑等の内容

山中委員長	美術コースについて、令和７年度と比べて美術コースの満足度が上がっていてよかった。せっかく面白い企画を実施しているので、よかったと思う。
佐藤委員	令和７年度と比べて満足度がかなり上がっていると感じた。展覧会の開催と合わせて講座を実施し、実際に作品を見る体験も含めた内容になっていたことがよかったのではないかと思う。美術は座学だけではなかなか理解が深まらない部分もあるので、実際に見る機会を組み合わせたことが効果的だったのではないか。 令和７年度は座学中心だったのか確認したい。
事務局	令和７年度は会場での座学に加え、参加者同士で意見を出しながら作品を鑑賞するワークショップ形式で実施した。ただ、第１回の内容が初心者向けに寄りすぎていて、参加者の期待とのミスマッチがあった部分もあった。 今年度はそのようなこともなく、展示室の隣というよい環境で講座を実施できた。講座終了後にすぐ展示を見ることもでき、そうした点が満足度の向上につながったのではないかと思う。
佐藤委員	前年度の結果を踏まえて今年度は工夫を重ね、その結果として満足度が上がったことは、とてもよかったのではないかと思う。
冨岡委員	令和７年度と８年度の両方の講座を受講した。対話型ディスカッションに関心があって参加したが、少人数で話し合いながら進める形式を想像していたものの、実際には講師が前で作品を示しながら参加者に意見を求める形だっ

	たため、もっと専門的に深く学びたい人には少し物足りなかったのではないかと感じた。一方で、単に作品を見るだけでなく、対話しながら鑑賞するという考え方自体はとてもよかった。参加人数を絞るなど、進め方を工夫すればさらに満足度を高められたのではないかと思った。
山中委員長	子ども向け講座であれば体験型の内容は適しているかもしれないが、大人向け講座の場合は体験を重視しすぎると、もっとしっかり学びたいという参加者には物足りなく感じられることもあるのではないかと思う。また、美術鑑賞自体も一つの体験ではあるものの、体験と学びのバランスを取るのは難しいと感じる。
川又委員	メディカルコースのアンケートで満足度がやや低かった要因の一つとして、熱中症の講義を行うタイミングが関係していたのではないか。７月下旬に熱中症の講座があったが、参加者の中には本格的に暑くなる前に聞きたかったと感じた人もいたのではないかと思う。心筋梗塞などは年間を通して関心のあるテーマだが、熱中症は季節性の強いテーマなので、実施時期を工夫すればもう少し満足度が高くなったのではないかと思う。 子ども向けのプログラミングコースについて、今回は定員２０人に対して受講者が１８人だったが、令和７年度は同じ時期の午前中開催で定員を超える応募があったとの話があった。今年はたまたま参加者が少なかったのかもしれないが、Scratch は小学校でも扱われている内容なので、今後も継続して実施していくとよいのではないかと思う。
事務局	メディカルコースで熱中症の講義を行った日は暑さが厳しい日であったことから、内容は時宜にかなったものではあった。しかし、より効果的な予防啓発の観点から、暑さが厳しくなる前に開催するなど、季節性のあるテーマについては実施時期も考えながら設定する必要があると考えている。 プログラミングコースの Scratch 講座については、例年も同じくらいの応募状況である。近年、子どもたちの夏季休業中の習い事や体験活動の多様化などにより、応募者数が伸びにくい傾向がある。 一方で、今年度新たに設定した大人向けのプログラミングコースの応募が多かったため、状況も見ながら、今後どのような講座設定にしていくか考えていく。

１２　協議内容

令和９年度さいたま市民大学各コース（案）について、事務局から資料３を基に説明の後、協議。

以下、質疑等の内容

山中委員長	令和９年度は１７コースとのことだが、コース数が増えているのか。
事務局	毎年コース内容の入れ替えを行っているため、増減しているということではなく、数自体は同じである。
西野委員	美術コースについて、来年開催されるさいたま国際芸術祭２０２７に関連し

	た企画はどうか。芸術祭は１０月から１２月まで開催され、世界的なアーティストに加え、市内のアーティストも多数参加予定であり、浦和周辺のほか、大宮や岩槻など複数会場で展開される。現代アートは市民にとってなじみにくい面もあるため、現代アートへの理解・知識を深め、国際芸術祭へ参加しやすくなるようなコースを設けてほしい。 また、令和８年度は舞台芸術コースが設定されているが、文化芸術には舞台芸術以外にも様々な分野がある。市民の学びの充実という観点から、幅広い文化芸術に触れられる講座の充実を期待する。
山中委員長	大きなイベントと市民大学の講座を関連付けていく視点も重要である。
冨岡委員	３点提案したい。１点目は、先ほど文化芸術分野を幅広くという話があったが、美術、文学、演劇などはある一方で、音楽に関する講座が見当たらない。講座として扱うのは難しい面もあるかもしれないが、例えばクラシックやポップスの歴史や背景を学ぶ講座と、実際にコンサートへ行く機会を組み合わせるなど、工夫できるのではないか。プロの演奏会が難しければ、県内のアマチュアオーケストラなどと連携する方法もあるのではないか。 ２点目は、生成ＡＩに関して、令和７年度にも生成ＡＩの使い方に関する講座があったが、その頃と比べると技術や活用方法は大きく変化している。使い方だけでなく、生成ＡＩとどう向き合うべきか、社会的な課題や法的な側面、ビジネスでの活用やスキルアップなども含めて取り上げる講座があるとよいと思う。 ３点目は、防災について、大きな地震があったことも踏まえ、防災についての講座を改めて検討してほしい。一般論だけでなく、酷暑時の避難や防災対策、厳寒期の防災対策など、テーマを絞って取り上げることで、市民の関心を高められるのではないか。
事務局	御提案いただいた中でも、生成ＡＩについては関連技術が日々進展しており、使い方だけでなく向き合い方も重要である。ＡＩによって一定水準の文章が容易に作成できる時代になっていることは実感しており、その活用方法や向き合い方を考えることは重要な視点である。
川又委員	令和７年度の生成ＡＩコースは非常に人気があり、受講できなかった人も多かったため、次回も受講希望者が見込まれると思う。生成ＡＩに関する講座はぜひ継続して実施してほしい。また、資料３を見ると対面形式が中心で、動画配信はライフプランコースと一部未定のコースに限られているが、生成ＡＩ講座のような人気講座はオンデマンド配信も活用すれば、より多くの受講者に対応できるのではないか。 プログラミングコースについては、子ども向け講座の受講者が少なめで、大人向け講座の人気が高い状況とのことだが、子ども向けは対象を小学５・６年生だけでなく４年生まで広げることも検討できるのではないか。また、大人向けについても、もう少し間口を広げた募集方法があってもよいのではないか。 防災については、先ほどの意見と重なるが、熱中症対策なども含めて引き続き検討してほしい。

	ライフプランコースの人権政策・男女共同参画のテーマについては、男女間の課題だけでなく、多様性という視点も重要になってきていると思う。LGBTQ などを含めた幅広いダイバーシティの観点についても、今後検討する際の視点として取り入れてもらえればと思う。
事務局	生成ＡＩは話題性も高く重要なテーマであり、令和９年度についても実施を含めて検討している。他機関でも取り扱われているテーマであり、内容の選定は難しい部分もあるが、引き続き検討していきたい。 プログラミングコースについては、以前は小学４年生と５・６年生を分けて実施していたが、発達段階の違いから同じ内容で指導することが難しく、現在の形としている。その点も含めて今後検討したい。 熱中症については、今年度取り上げているが、今後どのようなテーマ設定ができるか検討したい。 ライフプランコースについては男女共同参画課との連携事業として実施しており、多様性に関するテーマも含めて、内容について検討したい。
事務局	プログラミングコースについて補足する。令和６年度は小学４年生向けが１．８倍、５・６年生向けが１．５倍の応募倍率だった。令和７年度は同じ対象で実施し、４年生向けが１．２倍、５・６年生向けが１．３倍となっており、応募倍率はやや低下している状況にある。ただし、倍率が下がっていることだけを理由に終了する考えはない。子どもたちの予定が多忙になっていることも考えられ、日時設定については今後の検討課題と考えている。 男女共同参画に関する講座は、同じ施設内の男女共同参画推進センターと連携して実施している。今年度もライフプランコースの中で話題性のあるテーマを取り上げており、幅広い内容で事業を展開している。
関根委員	冨岡委員や川又委員の意見と同様に、熱中症はテーマとして重視してほしい。この夏は非常に厳しい暑さであり、５月から暑熱順化に取り組むことの重要性を実感している。こうした日常的な備えが、いざという時の防災力にもつながると思う。防災講座として独立させるだけでなく、さまざまな講座の中に自然な形で取り入れ、受講者が気づきを得られる内容にしてはどうか。 また、音楽分野の講座もあってよいと思う。文化芸術の中には音楽やダンスなど幅広いジャンルがあり、さいたま国際芸術祭２０２７とも関連づけることで、より広い視野で芸術を楽しめるようになるのではないか。自身もさいたま国際芸術祭を知ってはいるが積極的に参加する機会がなかったため、市民が参加するきっかけづくりになるような講座があればよいと思う。
事務局	熱中症や防災については、一つの講座として特化するだけでなく、さまざまな講座の一部として取り入れる方法も考えられる。いただいた意見も踏まえながら、今後の講座構成の中で検討していきたい。
佐藤委員	令和８年度に舞台芸術コースが設けられたことを大変評価している。一方で、令和９年度の案には舞台芸術に関する記載が見当たらず、一度限りで終わってしまうのではないかと残念に感じている。舞台芸術には演劇だけでなく、ダンスやミュージカルなど多くのジャンルがあり、継続して取り上げてほしい。

	また、伝統芸能という視点では、近年人気の高い落語や講談などもあり、それらをより深く楽しむための講座や、実際の公演に足を運ぶきっかけとなるような内容も考えられる。舞台芸術系の仕事に関わってきた立場から、映像ではなく実際の会場で鑑賞する感動を多くの人に知ってほしいと思っている。市民大学として、舞台芸術への関心を高めることを目的に、さまざまなジャンルを紹介する少し踏み込んだ内容の講座があってもよいのではないか。
事務局	昨年度の会議で文化的な内容が少ないとの意見があり、それを受けて今年度は舞台芸術コースを設けた経緯がある。現在は募集前の段階でもあり、「舞台芸術」という名称が適切かどうかも含めて検討しているところである。 文化分野として考えた場合、音楽や美術、さいたま国際芸術祭２０２７に関連する内容なども含めることが考えられるため、今後は「舞台芸術」という名称ではなくなる可能性もあるが、文化に関するコースとして継続していくことは一つの方向性として考えられる。
事務局	舞台芸術をなくすということではなく、どのような形で実施するのがよいかを検討している段階である。今回の案では名称を記載していないが、今後の検討事項の一つとして考えていきたい。
黒金委員	個別の事業については、来年３月から横浜で開催される、２０２７年国際園芸博覧会があるため、緑のまちづくりや環境問題などをテーマに取り上げてもよいのではないか。さいたま市も関わると聞いており、現地見学や講座など、さまざまな形での活用が考えられる。 また、個別の講座内容だけでなく、さいたま市民大学そのものの認知度向上についても考える必要があると思う。自身も委員になるまでは市民大学の存在をあまり認識していなかった。講座の魅力だけでなく、市民大学そのものを幅広い世代に知ってもらうため、PR の方法や発信のあり方を見直してもよいのではないか。 さらに、講座全体を通じて、世代を問わず参加しやすい象徴的な講座やイベント的な要素を持つ企画があってもよいのではないかと感じている。
事務局	さいたま市民大学を広く知ってもらうことは重要な課題であると認識している。まずは市民大学の存在を知ってもらうことが必要であり、資料で紹介したX（旧 Twitter）などもそのための手段の一つと考えている。 また、世代を問わず参加しやすい象徴的な講座については、具体的な内容は今後の検討となるが、これまで教養コースを市民大学の中心的な講座として位置付けてきた経緯もある。今後は目玉となる講座がより分かりやすく伝わるような形についても検討していきたい。
西野委員	伝統文化に関する話だが、文化芸術に関する施設や事業は数多くあり、この近くにも氷川の杜文化館の能舞台がある。そうした地域資源も活用できるのではないかと思う。
川又委員	生涯学習は重要なミッションの一つだと思うが、千葉県では県や市、放送大学などが連携し、生涯学習に関するネットワークを形成している事例があると聞いている。さいたま市や埼玉県、他自治体などとの横の連携があれば、市民

	だけでなく県全体へ広がるような取組につながる可能性もあるのではないか。そのようなネットワークについて検討の余地があるのではないかと思う。千葉県の取組についてさらに情報が分かったら、参考として紹介したい。
事務局	ネットワークというと、市内の施設や教育委員会との連携をまず想定できる。県がどのような取組を行っているかも調べながら、大きなイベントや他機関との連携の可能性について検討していきたい。
黒金委員	受講料の支払いについて、近年はキャッシュレス決済やポイントの利用が広がっているため、さいコインなどが使えるような仕組みがあると利便性が高まるのではないか。
事務局	市民大学では多くの講座で受講料のキャッシュレス決済に対応している。その中には、さいコインやたまポンでの支払いも含まれている。
山中委員長	さいたま市で子どもの権利条例の制定に向けた取組が進められており、子どもの声を聞くためのワークショップなども予定されていると聞いている。子どもの権利は非常に重要なテーマであり、特に子どもに関わる立場の人にとって学ぶ機会が必要ではないかと思うため、講座テーマとして検討してもらえればありがたい。 また、高齢者の権利についても国際的に議論が進んでおり、多様性に関連する課題の一つとしてエイジズムの問題もある。受講者には高齢者も多いことから、高齢者の権利について取り上げることも意義があるのではないか。

１３　その他

令和８年度運営委員会等のスケジュールについて、事務局から資料４を基に説明。

１４　閉会